

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

嶮山小通信

6月号

横浜市立嶮山小学校

TEL:902-7161,7162

FAX: 904-4254

令和 2年 6月 1日

校長 山口 昭代

ホームページアドレス <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

他者を思いやる心

副校長 内田 宏平



誰がコロナウイルスに感染しているのか全く分からない状況の中、感染拡大を阻止すべく世界中の人々が力を合わせて行動してきました。なかなか出口の見えない戦いを強いられている感覚が膨らみ、必要以上に疑心暗鬼になってしまう気持ちを生み出してしまったのでしょうか。他者の置かれている状況を理解することのできない寂しいニュースも流れていました。

そのようなときに、次の文章を目にしました。

「自分だけは絶対にうつるもんか」と考えると周りは化け物だらけになるが、「自分は絶対に他人にうつさないぞ」と考えるだけで、周りの化け物は人の顔を取り戻すものである。 吉村 萬壱(よしむら まんいち)

【朝日新聞 2020年4月22日掲載】

コロナウイルスに対する警戒を緩めることはできません。自分の命や家族・仲間の命を守るために。と同時に、他者を思いやる心を失ってもいけません。

私たちは、学校を含めた社会の中で多くの人と出会う経験を積むことで自分以外の他者の存在を知り、その他者の置かれている状況や背景を想像する力を培ってきました。その力によってこそ、私たちは人間らしく暮らせていると言っても過言ではありません。

吉村さんの文章を読んで、これからのコロナウイルス対策において大切にしたい心のもちようを教えられた気がします。

発症者二桁に減り良いほうのニュースにカウントされる人たち 俵 万智(たわら まち)

【短歌研究5月号(短歌研究社)掲載】

発症者減少に喜びを感じ、あらゆる生活が再生されることへの希望が高まります。しかし、減少したとはいえ、発症した人がいるのは事実であり、その発症者本人はもちろん家族や仲間たちも辛い思いをしています。発症者がいるという事実は良いニュースではないのです。辛い思いをしている人たちを見ないことにして喜ぶことは、人間らしいと言えるのでしょうか。俵さんは、私が漠然と感じていた違和感を同じように抱いていたようです。

休業期間中、我々教職員一同、一人一人のお子さんの顔を思い出し、ご家庭での様子を想像し、学校としてできることを模索しながら支援策を講じてきました。保護者の皆様には、お子さんの生活や学習を支えていただき、大変なご苦労があったことと思います。ご理解とご協力をいただき、本当にありがとうございました。

登校再開によって、子どもたちの姿が学校で見られるようになり、まさに学校に血が通ったような感覚になります。引き続きコロナウイルス対策に万全を期すと同時に、今だからこそしっかりと、他者を思いやる心を育むという価値ある目標を目指していきたいと考えています。そして、そこから生まれる活動が「嶮山あったかハーモニー」実現への道標になると信じています。

地域の皆様、関係各位の皆様には、これまで同様、学校教育活動へのご理解と子どもたちへの温かい眼差しをいただけましたら幸いです。